秋田市教育委員会
会 議 録

平成 2 5 年 9 月定例会

秋田市教育委員会平成25年9月定例会会議録

- 1 日 時 平成25年9月25日(水)
午後2時30分～午後4時25分
- 2 場 所 教育委員会室
- 3 出席委員 委員長
教育委員
教育委員
教育委員
教育委員(教育長)
- 4 出席職員 教育次長
教育次長
総務課長
総務課参事
学事課長
学校教育課長
学校教育課教職員室長
教育研究所長
スポーツ振興課長
文化振興室長
生涯学習室長
文化振興室参事
秋田商業高等学校教頭
秋田商業高等学校事務長
御所野学院中学校教頭
御所野学院高等学校事務長
総務課長補佐
総務課副参事
学校教育課長補佐
総務課主席主査
総務課主査
総務課主査
学事課主査
教育研究所主査
総務課主事

5 議 題

【付議案件】

- (1) 議案第24号 秋田市雄和ふるさとセンター管理運営規則を廃止する件
- (2) 議案第25号 秋田市河辺農林漁業資料館管理運営規則を廃止する件
- (3) 議案第26号 秋田市教育委員会行政組織規則の一部を改正する件
- (4) 議案第27号 教育委員会事務の点検・評価に関する件

【協議事項】

- (1) 平成26年度秋田市立秋田商業高等学校の生徒募集公告について
- (2) 平成26年度秋田市立御所野学院中学校の生徒募集公告について

【教育長等の報告】

- (1) 平成25年度全国学力・学習状況調査における秋田市の調査結果について
- (2) 平成25年9月市議会定例会の審議状況について

6 議 事 午後2時30分開会

【平成25年8月定例会会議録の承認】

平成25年8月定例会会議録について、異議がないため承認された。

【会議録署名委員の指名】

委員長が今回会議録の署名委員として委員2名を指名した。

【付議案件】

議案第24号 秋田市雄和ふるさとセンター管理運営規則を廃止する件

委員長 議案第24号「秋田市雄和ふるさとセンター管理運営規則を廃止する件」について、事務局から説明願う。

文化振興室長 (資料に基づき説明)

議案第24号については、全員賛成により議決された。

議案第25号 秋田市河辺農林漁業資料館管理運営規則を廃止する件

委員長 議案第25号「秋田市河辺農林漁業資料館管理運営規則を
廃止する件」について、事務局から説明願う。

文化振興室長 (資料に基づき説明)

議案第25号については、全員賛成により議決された。

議案第26号 秋田市教育委員会行政組織規則の一部を改正する件

委員長 議案第26号「秋田市教育委員会行政組織規則の一部を改
正する件」について、事務局から説明願う。

総務課長 (資料に基づき説明)

委員 規則は、委員会で決定すれば成立するものか、それとも市議
会の承認が必要なのか。手続きについて教えてほしい。

総務課長 規則については、委員会で議決されて成立する。規則の上位
にあたる条例に関しては、議会の議決が必要となる。

議案第26号については、全員賛成により議決された。

議案第27号 教育委員会事務の点検・評価に関する件

委員長 議案第27号「教育委員会事務の点検・評価に関する件」
について、事務局から説明願う。

総務課長 (資料に基づき説明)

学校教育課長 (学校教育部門における学識経験者からの意見等につい
て、報告書の74ページから78ページにより説明)

生涯学習室長 (社会教育部門における学識経験者からの意見等につい
て、報告書の78ページから80ページにより説明)

- スポーツ振興課長 (スポーツ振興部門における学識経験者からの意見等について、報告書の80ページから82ページにより説明)
- 文化振興室長 (文化振興部門における学識経験者からの意見等について、報告書の82ページから84ページにより説明)
- 総務課長) (教育環境整備部門における学識経験者の意見について、
 学事課長) 報告書の84ページから85ページにより説明)
- 総務課長 意見等については、原則としてそのまま載せ、報告書の完成としたいと考えている。また、これらの意見等への対応については、今後の施策や事業、来年度の予算編成などにつなげていきたい。
- 委員 学識経験者の意見はそのまま載せているということだが、総括的な意見の最後にある「文化施設の評価における表記の統一」は理解できる。「評価できるか否かの明示など」と書かれている部分は、何を指していて、どういう意味合いで言われたのか教えてほしい。
- 総務課長 学識経験者ご本人には確認していないが、点検・評価にあたって、良くなった、あるいは悪くなったという判断ができない事務・取組がある。点検・評価では、そういう事務・取組が、実施してきたことや努めてきたこととして、評価および課題・改善点の欄に表現されることもある。「評価できるか否かの明示など」という表現は、内容によって判断が難しいものについては、そのことを明記したほうがいいのではないかという指摘であると受け止めている。
- 委員 たしかに内容によっては、評価することが妥当かどうかというケースもあると思う。そういうケースについては、例えば注釈をつけるなどする、という意味として受け止めていいのか。
- 総務課長 そのように捉えている。
- 委員 もう1点伺いたい。「評価できません」という表現が多く見られる。評価という言葉は、例えば5段階評価にす

ると5から1まであり、良いも悪いもある。今回は肯定的に使っているのので、二重丸か丸のどちらかの評価であると思うが、「評価できます」という表現は幅が広すぎるし、ニュアンスとしては伝え方が適正ではないのではないか。具体的にはっきり明確に伝わるような表現方法があつていいと思う。日常的に使っている言葉なので、言っている意味は分かるが、文章化するとどのように評価されているのか分からない。その点が気になった。

総務課長 指摘のとおり、「評価できます」という表現は、肯定的な場合と否定的な場合があるので、今後の点検・評価の際には、わかりやすくなるように表記について工夫したい。

委員 今回の点検・評価は、コンパクトに読みやすく分かりやすく全体の分量を圧縮したという話であったが、どのくらいページ数が圧縮されたのか教えてほしい。

総務課長 点検・評価が73ページまで、後半の10ページほどが学識経験者からの意見となっている。全体で85ページという分量は、ここ3、4年、140ページから150ページくらいであったことと比較すると、約半分より少し多いくらいの分量となっている。

委員 分かりやすく、コンパクトになったということか。

総務課長 そのとおりである。

委員長 学校教育部門の高等学校教育の充実の参考欄に、進路状況や部活動の活躍状況を具体的に明記していることは、アピールでき良いことと思つたが、この具体的な記述は高等学校だけなのか。

学校教育課長 秋田商業高校については、文武両道の伝統校であること、御所野学院高校については、6年間のキャリア教育を進めた上での進路がどのような状況にあるのかということ、これは教育の成果のひとつにあたるということ。また、美術大学附属高等学院については、その専門性をいかし

てどのようなことをやっているのかということは大事な部分であると捉えている。小中学校は、そういう点とは異なったものと捉えている。

議案第27号については、全員賛成により議決された。

【協議事項】

(1) 平成26年度秋田市立秋田商業高等学校の生徒募集公告について

- 委員長 協議事項(1)について、事務局から説明願う。
- 学事課長 (資料に基づき説明)
- 委員 前期選抜の出願資格について、「中学校の卒業見込みの者」は分かるが、「これに準ずる学校」は、何を想定しているのか。大学受験の場合は大検などがあるが、これは海外からの帰国子女などを想定した表現なのか。
- 学事課長 前期選抜の趣旨から、中学校卒業見込みの者を対象にしていると思われる。高等学校の入学資格については、文部科学省が発表しており、その中で該当するものは、外国において学校教育における9年の課程を修了した者、在外教育施設、いわゆる日本人学校で中学校と同等であると指定された課程を修了した者である。そのほかに、該当者がいるかわからないが、就学義務猶予免除者等で中学校卒業程度認定試験を合格した者が挙げられる。

協議事項(1)については、以上のとおり了承された。

(2) 平成26年度秋田市立御所野学院中学校の生徒募集公告について

- 委員長 協議事項(2)について、事務局から説明願う。
- 学事課長 (資料に基づき説明)
- 委員 出願資格について、保護者とともに秋田市内在住又は平

成26年4月1日まで在住予定の者となっているが、保護者とは、親のほかには祖父母も入るのか。また、保護者となる者は、その届け出が必要であるのかなど、保護者であることをどのように確認しているのか教えてほしい。

学事課長 保護者は、児童の保護、監護を行える者、親権を有する者など、実態に応じて判断すべきものと思われる。場合によっては双方ということもあり得る。

委員 入学願書には実態に応じた保護者が記入されていることが必要か。

学事課長 願書に記載する欄がある。

委員 実際に住んでいるのかや引っ越してきたかなどを特に確認はしていないのか。

学事課長 26年4月1日までに在住することを証明できる書類を添付してもらっている。

委員 住民票のようなものか。

学事課長 住民票となればすでに秋田市に居住していることになる。

学校教育課長 引っ越してきて、そこに住む、または家を建てるということであれば、契約に関わる書類が必要となる。

学事課長 建築確認書又は建物の売買契約書、賃貸契約書を添付してもらおう。

委員 現在の方式に変わって2年目か。

学事課長 そのとおりである。

委員 志願者が80人とのことだが、昨年の倍率はどれくらいか。

学校教育課長 昨年度は1.5倍であった。

協議事項(2)については、以上のとおり了承された。

【教育長等の報告】

【非公開の議決】

委員長 報告(1)「平成25年度全国学力・学習状況調査における秋

田市の調査結果について」は、本市では公表しないデータについての説明があると聞いている。よって、秘密会として取り扱うこととし、日程の最後に審議したいと思うがどうか。

以上の発議があり、全員賛成により議決した。

(2) 平成25年9月市議会定例会の審議状況について

総務課長 （教育産業委員会で審議された議案、報告について内容を報告）

【その他、事務局から】

(1) 10月の教育委員会関連行事予定について

総務課長 （10月の行事予定について、資料に基づき報告）

(2) 協議事項(1)平成26年度秋田市立秋田商業高等学校の生徒募集公告についての回答の訂正について

学事課長 先ほど前期選抜の出願資格について、一般選抜の出願資格に準ずるものとして説明したが、秋田県公立高等学校入学者選抜実施要項にその記載があるので、訂正したい。要項では、中学校には中等教育学校前期課程を含み、中学校に準ずる学校とは、特別支援学校中学部であるとなっている。このことから、これらの学校を平成26年3月に卒業する見込みの者が出願資格のある者である。

(3) 民俗芸能伝承館の観覧者数と今後の方針について

文化振興室長 民俗芸能伝承館の竿燈期間中の観覧者数は、8月3日か

ら6日までの合計で、平成25年は2,704人、平成24年は2,228人であり、476人増え、増加率は21.4%となっている。

次に民俗芸能伝承館のあり方、考え方についてだが、民俗芸能伝承館は平成4年8月に秋田の民俗行事や芸能の保存、伝承、後継者育成を目的として開館した。1階では、国指定の重要民俗無形文化財であり、全国的に知られている竿燈を実演している。県外からの来館者も多くいることから、現在は観光施設としての性質も兼ね備えた施設となっている。来館者のために土・日・祝日のほか、平日も竿燈の実演を行うとともに、実際に竿燈に触れ、気軽に体験できるよう配慮しており、市内の文化施設の中でも人気の高いスポットとなっている。このような状況から、デスティネーションキャンペーンや国文祭関連による来館者が増えることが予想されるので、秋田市の伝統文化を発信、披露する観光のための施設として、また、当初からの目的である本市伝統芸能等を保存、伝承するための施設として、役割を担っていかねばならないと考えている。

【その他、委員から】

委員

先日、2020年に東京オリンピックが招致されることが決まり、皆が自分の7年後の姿を思い描いたと思う。様々な課題や問題を抱えているが、今のこの盛り上がりと、国家的な大きな目標ができた中で、学校教育現場では大変生きた教材となる。特に、招致の際にほぼ英語でスピーチをしたパラリンピック選手の佐藤真海さんの話は、訳文で読むよりは原文で読んだほうがピンとくるのではないかと、英語の教材になるのではないかと思う。内容によっては道徳の教材にもなり得る。教育上様々な形で身につけ、血となり肉となると思うので、教育現場で話題にならないことはないと思うが、様々な機会において、子どもたちの関心が強いかもしれないのでいかしてほしい。そのような点から、

アドバイスやアプローチを現場との間でやりとりしてもらいたい。

また、競技スポーツ面から7年後のことを思えば、別の側面が出てくる。今はジュニアの世代であり、7年後に20歳前後となれば、ちょうど現在小学校の高学年や中学生には大きな目標ができたと思う。指導の在り方も含めて変わってくると思う。今日の新聞報道に、スポーツ活動における体罰の話題が出ていた。東京オリンピックを青春時代と覚えているわたしたちの世代からすれば、あの頃は根性やスパルタ、八田イズムなどが言われていたが、現在、スポーツは教え方を含め科学するものとなった。日本の社会も高度経済成長から成熟社会に入ったことから、スポーツの指導も成熟社会の中でのオリンピックという見方もでてくる。経済面だけではなくて、様々な側面があり、そのあたりも含めて考えてもらえればと思う。

最後に、オリンピックの開催は7月24日から8月9日の一番暑い時期にあたっているが、開催前に各国チームは合宿などの場として寒冷地を選ぶのではないか。周辺国として韓国や中国、北海道もあるが、秋田も適地であると思う。招致にあたり、どのような施設整備が必要なのかを含めて、今から様々な準備をしておくことが大事だと思う。もし取り組むとすれば、教育委員会だけではなく、全市的、全県的な取り組みが必要になってくる。まずは、施設の強化、設備の充実に力を入れて、その後実際の招致活動をするなど、十分留意し、情報を得ながら取り組んでほしい。

委員 以前に給食器具が欠ける事故があった際に、前川委員から業者に連絡してはどうかという意見があったと思うが、その連絡はしたのか。

学事課長 業者の秋田営業所に連絡したところ、文書で回答をするとのことだったが、まだもらっていない。

委員 その文書はいずれくるのか。

学事課長 時間がかかっているので催促したい。

委員長 秋田市内の中学校の女性管理職の数が少ないと思う。県立高等学校や秋田市内の小学校の女性校長、教頭の数と比べると、格段に少なくなっている。校長になるにはその前に教頭を務めることになるだろうと思う。教頭になるには、学校現場で、例えば教務主任や学年主任などでキャリアを積む必要があると思うが、中学校の管理職数は現状のとおりでしかないのか。過去にもう少し女性管理職がいたころがあったように記憶している。何が原因なのか教えてもらいたい。

【その他、今後の日程についての報告】

総務課長補佐 教育委員会10月定例会は、10月24日(木)午後3時30分からを予定している。

【教育長等の報告】

(1) 平成25年度全国学力・学習状況調査における秋田市の調査結果について

(教育長等の報告(1)は、秘密会のため、秋田市教育委員会会議規則第23条の規定に基づき、会議録に記載しない。)

午後4時25分閉会

以上